

## 新聞記事を用いた知的好奇心の喚起と探究的な協働力・創造力の育成

指定校 1 年次 長野県屋代南高等学校 肥田 尚音

### (1) 本年度の N I E 活動の概要

N I E 研究指定校 1 年目の本年度は、①生徒が新聞に触れる機会を増やすこと、②新聞記事を題材とした探究的活動を通して、生徒の言語力、協働力、コミュニケーション能力を育むこと、③新聞記事を有効的に活用して生徒の知的好奇心を喚起し、主体的・対話的で深い学びを実現すること、の 3 つを目標として設定した。そして、これらの目標を達成するために、学校全体として取り組む N I E 活動と、教科の学習における N I E 実践の、2 つの主な取り組みを計画し、1 年間の研究活動を行った。

### (2) 本年度の N I E 活動をはじめる前の状況

本校は全校生徒 303 名（令和 6 年 4 月 1 日現在）、普通科 9 クラス、ライフデザイン科 3 クラス、合計 12 クラスの小規模校である。素直で人懐っこい生徒が多く、学習をはじめとする学校生活を落ち着いて送ることができている。

各教室には電子黒板や校内 Wi-Fi が整備されており、生徒全員がタブレット端末を所有していることから、ロイロノートや Google Classroom など、ICT を積極的に活用した学習活動が行われているとともに、プレゼンテーションやグループワークの実践など、生徒の主体的・対話的な学びの実現に向けた取り組みも各教科でなされている。また、本校の専門学科であるライフデザイン科では、フードデザインコースが全国高校生クッキングコンテスト（2023 年）において最優秀賞である文部科学大臣賞受賞という快挙を成し遂げ、ファッションデザインコースにおいても、第 61 回全国ファッションデザインコンテスト（2024 年）で優秀賞を受賞し、いずれも新聞等の複数メディアで取り上げていただいた。

N I E 活動をはじめる前の新聞活用状況については、日頃から新聞に親しんで興味・関心をもっている生徒は多くないというのが現状であった。一方で、授業で新聞記事の紹介をして社会の出来事に目を向けさせたり、定期考査で新聞記事を題材とした設問を出題して意見や考えを論述させたりするなど、生徒の学習活動に新聞記事を取り入れた工夫をしている教職員もいた。

### (3) N I E 活動の狙い（育てたい力）

本校は「誠実と自発」という校訓のもと、自らを律して他者を尊重するとともに、自発を発端とする自主的かつ活気に満ちた活動を通して、平和で幸福な未来を創造していく高校生を育成する、という目標を掲げている。この目標を踏まえ、本年度の N I E 活動を通して次のような力を育てていくこととした。

- ① 他者の意見や考えを尊重し、自らの価値観や視野を広げていこうとする力
- ② 社会事象に好奇心をもって観察し、興味・関心を高めていこうとする力
- ③ 流動的な現代社会において、新しい価値を生み出す創造力
- ④ 主体的かつ対話的に学びへ向かう姿勢
- ⑤ 社会の諸課題を見つけ出し、その課題に対する解決策を生み出していこうとする力

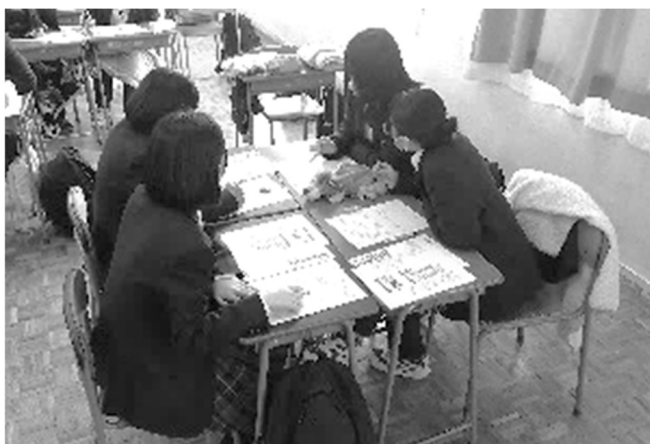
#### （４）公開授業以外のN I Eの取り組みの状況

##### 【N I E 探究学習】

学校全体で取り組む活動として、「N I E 探究学習」と称し、月に１度、特別日課を設定して、新聞記事の内容をテーマとする共通の学習シートをもとに、全校一斉でクラスごとに探究学習を行った。

本年度、N I Eの研究活動を開始する際に、教職員と全校生徒が同じ目標に向かって取り組むことができるN I E活動を実践したいと考え、この探究学習を企画した。この学習で使用する学習シートは、「信濃毎日新聞学習シート」を参考にして本校の職員が新聞記事を選定し、その記事の内容にもとづいて設問を考えた、本校オリジナルのN I E探究学習シート（資料１）である。記事の選定については、各教科の輪番制にすることで教職員全体が生徒の探究学習に関わる機会を増やすとともに、様々な教科の視点から記事を選んで設問を設定することによって、生徒が社会で起きている諸事象について多種多様な視点から考える機会とした。

さらに、「N I E通信」（資料２）を発行することで、探究学習における他の生徒の取り組みの様子を共有するとともに、探究学習で扱ったテーマについて生徒がより一層深い学びができるように工夫をした。



NIE 探究学習に取り組む生徒

##### 資料１ 「NIE 探究学習シート」の例

| 第5回 N I E探究学習シート                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ( ) 年 ( ) 組 ( ) 番 氏名                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                        |
| <b>「アスリートの遺伝子研究停止～遺伝子研究とスポーツの未来の姿～」</b>                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                        |
| <p>遺伝子は、体の設計図です。ヒトの体には2万を超える遺伝子があり、スポーツに関わると思われる遺伝子もいくつか発見されています。日本では、2017年より東京オリンピックの「遺産」として、トップアスリートの様々な遺伝子が競技成績やケガのリスクに関係するかどうかという研究が進められていました。しかし、アスリートの選別や差別につながるという指摘や、研究結果に十分な責任を負えないなどの理由で研究は中止されました。このことから、遺伝子研究がスポーツに与える影響をもう一度見直しましょう。</p> | <p><b>アスリートの遺伝子研究停止</b></p> <p>競技の適性判断で選別・差別の懸念</p> <p>遺伝子研究の停止は、アスリートの未来の姿にどのような影響を与えるのでしょうか。その理由を、ワーク1またはワーク2（両方を見てもよい）から、グループ内で特に話題になったことなどについて、1分を目安に発表してください。</p> |
| <p><b>ワーク1</b> 記事から、「アスリートの選別や差別」とはどんなことが起こるかと考えられますか。選手だけでなく、保護者や指導者、スポンサーなど様々な立場から考えてください。</p>                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                        |
| <p><b>ワーク2</b> もし、各国でこのような遺伝子研究が自粛されなければ、スポーツの未来の姿はどうなるか考えますか。そのような世界におけるスポーツの姿とその賛否、なぜそう思うかを考えてください。</p>                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                        |
| <p><b>発表</b> ワーク1またはワーク2（両方を見てもよい）から、グループ内で特に話題になったことなどについて、1分を目安に発表してください</p>                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                        |

##### 資料２ 「NIE 通信」の例

| <b>N I E 通信</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 歴代南高等学校<br>令和6年7月26日<br>第2号                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |  |
| <b>これからの時代に求められる資質・能力は？</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |  |
| <p>あなたは、「VUCA（ヴーカ）」という言葉を知っていますか？<br/>VUCA（ヴーカ）とは、Volatility（不安定）、Uncertainty（不確実）、Complexity（複雑）、Ambiguity（曖昧）、の4つの単語の頭文字からつくられた言葉で、流動的で予測不能な現代社会の様子を表したものです。</p> <p>今、あなたはまさにVUCAな時代を生きています。そして、この時代の中で、一人の社会人として自ら人生を切り拓いていかなければなりません。</p> <p>かつての社会では、豊富な知識をもち、その知識を十分に使いこなす能力が必要とされていました。しかし、VUCA時代が到来した現代社会では、「予測不能な世の中に新たな価値をつくりあげる能力」が求められるようになっていきます。そして、この力の根源となるのが「批判的思考力」や「協働力（共創力）」などです。</p> <p>では、あなたはどういう学習を通してこれらの力を養うことができるのでしょうか？<br/>それは、「対話的な学び」です。</p> <p>対話的な学びとは、お互いに意見を出し合い、課題解決に向けて協働作業を進める学習のことを指し、NIE学習を通して意見交換をしたり、議論をしたり、新たな考えに気づくことが、まさに「対話的な学び」になっています。</p> <p>今後の学習においても、自分の価値観に他者の意見や考えを取り入れながら、「新たな価値」を生み出す思考力を養っていきましょう。</p> |  |
| <b>第2回 NIE 学習を終えて</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |  |
| <p>今回のテーマは「空き家の再利用法について」でした。これまで「空き家問題」について考える機会は少なかったと思いますが、再利用法を考えることは、まさに「新たな価値」を生み出すことに繋がっているのです。以下に今回の取り組みで出されたアイデアの一部を紹介します。自分では思いつかなかったようなアイデアに触れる機会としてください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>○スクリーンを設置して、「映画館」として有効活用したらどうだろうか。</li><li>○若者男女がともに楽しみながら交流できる空間として有効活用したらどうだろうか。</li><li>○ホームパーティーなどで利用できる貸し空間として有効活用したらどうだろうか。</li><li>○地域の人々が利用できる図書館として有効活用したらどうだろうか。</li><li>○子ども食堂やリサイクルショップとして有効活用したらどうだろうか。</li><li>○水槽を設置して、小さな水族館として有効活用したらどうだろうか。</li></ul> など                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |  |

（記事：2024年9月17日、信濃毎日新聞）

## (5) 公開授業などの活動内容

|     |                                |
|-----|--------------------------------|
| 日 時 | 令和6年11月7日(木) 5時限目(13:30~14:20) |
| 場 所 | 長野県屋代南高等学校 1年3組教室              |
| 科 目 | 地理総合                           |
| 単元名 | 「世界の食料問題」                      |
| 対 象 | 1学年3組(男子7名 女子14名)              |
| 授業者 | 地歴公民科 教諭 肥田 尚音                 |
| 助言者 | 信濃毎日新聞社 NIE アドバイザー 二木 治樹 先生    |

### 1. 単元目標

| 知識・技能                                                                                                         | 思考・判断・表現                                                                             | 学びに向かう力・人間性                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 世界各地で見られる食料問題などをもとに、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて概観するとともに、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることを理解する。 | 世界各地で見られる食料問題などについて、地域の結びつきや持続可能な社会づくりなどに着目して主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。 | 世界各地で見られる食料問題について、よりよい国際社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 |

### 2. 指導上の立場

#### ○単元観

現代社会における様々な地球的課題の解決に向けて、他地域との結びつきや地域の特徴などに着目しながら、持続可能な社会をつくるために、今後どのような取り組みが必要かを追究することができる単元構成が可能だと考える。

#### ○生徒観

生徒は普段の授業からグループワークやプレゼンテーションなどの対話的な学習活動を通して、お互いの意見や考えを共有させる経験を積んできている。その一方で、対話自体を苦手とする生徒も一定数おり、自主的で活発な学習態度の育成が課題となっている。

#### ○指導観

食料問題等の地球的課題と国際協力について、生徒が「持続可能な国際社会づくり」という視点に立って主体的に追究する機会としたい。

### 3. 指導と評価の計画(全4時間)(○…「評定につなげる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

|   | ねらい・学習活動                                                                  | 知 | 思 | 態 | 評価基準など |
|---|---------------------------------------------------------------------------|---|---|---|--------|
| 1 | <p>【ねらい】 飢餓や飽食の問題について理解する。</p> <p>飢餓や飽食は、どのような問題なのだろうか。また、なぜ発生するのだろうか</p> |   |   |   |        |

|           |                                                                                                                                                                                                                                 |   |   |                                                                                                                                                                                               |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口増加、出生率および乳児死亡率の多い地域の特徴とその原因について考察する。</li> <li>・新聞記事を参考資料として、アフリカをはじめとする発展途上国における飢餓や、先進国における飽食の現状についてまとめる。</li> <li>・先進国における大量の食料消費と、発展途上国で発生している食料問題との因果関係、およびその構造について考える。</li> </ul> | ○ | ● | <ul style="list-style-type: none"> <li>●乳児死亡率の高い国はアフリカ地域に集中していることを読み取り、その原因を栄養不足の面から考えられている。</li> <li>○飢餓や飽食の問題について理解している。</li> <li>○先進国による穀物の大量消費が、発展途上国の食糧不足に大きく影響していることを理解している。</li> </ul> |
| 2         | <p>【ねらい】 アフリカ諸国における食料問題への取り組みについて理解する。</p> <p><b>アフリカでは、食料問題に対してどのような取り組みが行われているのだろうか</b></p>                                                                                                                                   |   |   |                                                                                                                                                                                               |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発展途上国で発生している食料問題に対する国際的な支援活動とその取り組みについて、JICAの青年海外協力隊と関連付けながらまとめる。</li> <li>・信濃毎日新聞「ケニア奮闘記」を読み、現地での青年海外協力隊の取り組みや現状についてまとめる。</li> <li>・まとめた内容について、各グループで共有する。</li> </ul>                  | ○ | ● | <ul style="list-style-type: none"> <li>○JICAの青年海外協力隊について調べ、主な活動内容とその意義について理解している。</li> <li>●記事の内容を十分に読み込み、その要旨についての的確にまとめあげている。</li> <li>●まとめた内容について、分かりやすく伝えようと工夫している。</li> </ul>            |
| 3<br>(本時) | <p>【ねらい】 飢餓問題の改善に向けた食料生産の活性化について考える。</p> <p><b>食料生産を活性化させるために、どのような取り組みができるだろうか</b></p>                                                                                                                                         |   |   |                                                                                                                                                                                               |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・青年海外協力隊として活躍している現地記者に向けて、食料生産活性化のアイデアを提案することをテーマとしたパフォーマンス課題に取り組む。</li> <li>・課題について各グループで考えたアイデアを発表する。</li> </ul>                                                                       | ○ | ● | <ul style="list-style-type: none"> <li>○発展途上国の環境を考慮した上で、現地の食料生産を向上させるための方策について具体的にまとめている。</li> <li>●課題や発表に対して意欲的に取り組もうとしている。</li> </ul>                                                       |
| 4         | <p>【ねらい】 飢餓問題を解決するための持続可能な食料生産について検討する。</p> <p><b>持続可能な食料生産を実現するために、どのような工夫が必要なのだろうか</b></p>                                                                                                                                    |   |   |                                                                                                                                                                                               |

|                                                                                                                                          |  |   |   |                                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|---|---|-----------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時のパフォーマンス課題で各グループが考えたアイデアを検討し、アイデアのブラッシュアップを図る。</li> <li>・まとめとして、互いのアイデアについて相互評価をする。</li> </ul> |  | ○ | ○ | ○持続可能な食料生産の実現について、各グループアイデアを比較・考察しながら、より現実的な方策について分析している。 |
|                                                                                                                                          |  |   | ● | ●適切な相互評価を行うことができる。                                        |

#### 4. 本時の目標

- ・発展途上国のなかでも深刻な食料不足に直面しているアフリカ地域において、持続可能な食料生産と供給を実現するためにはどのような取り組みが必要か、多角的・多面的に考える。
- ・発展途上国における深刻な食料問題に関する課題（テーマ）について、グループメンバーと共に主体的に追究しようとする力を養う。

#### 5. 本時の展開

| 段階               | 学習内容                                                                                | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 指導・助言                                                                                     |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入<br>(5分)       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の振り返り</li> <li>・本時のテーマ説明</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・青年海外協力隊として活動している田中萌子記者（信濃毎日新聞社）から送られたメッセージと、現地の様子を写した写真を確認する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時からの繋がりを意識させる</li> </ul>                         |
| 展開<br>1<br>(30分) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地で食料生産を向上させるための具体的なアイデアについて考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでパフォーマンス課題に取り組む。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>パフォーマンス課題</b></p> <p>あなたは、JICAの青年海外協力隊としてケニアへ派遣されている信濃毎日新聞社の田中記者に向けて、現地の食料生産を拡大するためのアイデアを提案することになりました。現地の食料問題を改善するために、具体的にどのような取り組みができるのでしょうか。グループで意見を出し合いながら、アイデアをまとめましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「品種改良」「農業技術」「環境整備」「社会づくり」などから、アイデアのテーマを考える。</li> <li>・アイデアのテーマにもとづき、①現地で実現したいこと、②実現するうえで課題となること、③その課題を解決するためにできること、の3つに分類してアイデアを考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に現地で活動する田中記者へアイデアを提案する、という意識を強く持たせる。</li> </ul> |
| 展開<br>2<br>(10分) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで考えたアイデアを共有する。</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループで考えたアイデアを、別のグループメンバーに対して発表・説明をする。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジグソー法を用いて発表をさせる。</li> </ul>                       |
| まとめ<br>(5分)      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容を振り返る</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループのアイデアを共有して新たに考えたことや発見したこと、興味・関心をもったことについてまとめる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめはロイロノートで提出をさせる。</li> </ul>                     |

＊単元で使用した新聞記事

- ・「ケニア奮闘記①」（信濃毎日新聞. 2024/1/29）
- ・「ケニア奮闘記②」（信濃毎日新聞. 2024/3/9）
- ・「ケニア奮闘記③」（信濃毎日新聞. 2024/3/28）
- ・「食物廃棄、世界で1日10億食超」（信濃毎日新聞. 2024/4/13）
- ・「ケニア奮闘記④」（信濃毎日新聞. 2024/5/28）
- ・「栄養失調7億5700万人」（信濃毎日新聞. 2024/7/25）

6. 生徒の取り組みの様子

以下は、本時のパフォーマンス課題について生徒が考えたアイデアの抜粋である。

- ・農業生産効率を高める農業機械の導入を実現させるために、クラウドファンディングを利用して導入資金を調達させる。
- ・貯水のための設備を整えることによって、雨水に頼った農業手法を改善し、農作物の生産増を図る。
- ・畑にゴミが投げ捨てられている現状を改善するために、一定数の公共ゴミステーションを設置して、農作物の生育環境を向上させる。

（6）1年間取り組んだ成果と課題

全校での取り組みとなるN I E探究学習では、生徒が幅広い新聞記事に触れて社会の諸事象に目を向け、互いに意見を出し合いながら社会における諸課題とその解決策について思考することのできる機会をつくったことにより、生徒の協働力や言語力、コミュニケーション能力の向上に繋がったと思われる。また、教職員にとっても、オリジナルの探究学習シートを作成し、ファシリテーターとして生徒とともに探究的な学習に取り組んだことで、伴走者としての生徒への働きかけや教材作成についての理解が一層深まり、結果として本校の総合的な探究の時間をより充実化させるための土台作りになったと考える。

教科指導については、主に地歴公民科の科目において新聞記事を教材として活用する授業を実践した。特に公開授業については、実際に記事を書いている信濃毎日新聞記者の方から学習課題に関連する内容の手紙を生徒宛てに書いていただき、その手紙を生徒たちに紹介することで、生徒たちの学習に対する好奇心が向上し、学習課題を自分事としてとらえて主体的かつ活气的で充実した学びを実現することができた。新聞記事をただ単に授業の教材として使用するのではなく、記事を書いている記者の方にも間接的に授業へ参加していただくことで、生徒のより主体的・対話的で深い学びの実現につながることを実感した。

次年度は、本年度取り組んだN I E探究学習をブラッシュアップして、生徒と教職員が一丸となってより充実した探究学習を実現させるとともに、教科指導における新聞記事の有効活用方法や、新聞社(新聞記者)との関わりの広がりについて、さらに研究と実践を重ねていきたい。